

【三井グループ 350周年記念事業】

若きチャレンジャー30人が1年間の成果と展望を発表
～チャレンジャー発表会 STAGE UP MEETING 2025 開催～

三井グループは2025年5月12日（月）、東京ミッドタウン八重洲 イノベーションフィールドにおいて、三井グループ 350周年記念事業である「三井みらいチャレンジャーズオーディション」の開始1年を記念し、「チャレンジャー発表会 STAGE UP MEETING 2025」を開催しました。

三井グループは2023年、元祖「三井高利」が江戸に進出し、日本橋に越後屋を出店した1673年から350年の節目を迎えました。この間、自由闊達な風土の中「ひと」を守り豊かに育むことを続け、常に「ひと」を基軸に、新たな時代の変化に先見性をもって取り組んできました。三井グループではこの節目にあたり、2023年度から2027年度の5年間、グループの存在意義を再確認しながら、社会課題の解決に取り組む姿勢を体現すべく記念事業を実施しております。

その一環として企画実施された「三井みらいチャレンジャーズオーディション」は、未来に向けた良き社会づくりに夢や目標を持ち、チャレンジする若者を発掘・支援するプログラムです。「事業・社会活動」「研究・留学」「カルチャー創造」の3部門を創設し、合計で722名から応募があり、最終的に選出された30名のチャレンジャーが、2024年3月より、イノベーションを起こし未来を変えていくべく様々な取り組みへチャレンジしています。

今回、開始から1年を経過したタイミングで「チャレンジャー発表会 STAGE UP MEETING 2025」を開催、チャレンジャーたちはこれまでの活動成果と今後の展望を発表しました。当日は30名全員が参加（海外からのオンライン参加含む）し、活動状況のプレゼンテーションは、それぞれが自分らしさを存分に発揮した個性的な内容で、聞き手を引き込む魅力にあふれていました。会場の参加者からは「多様な視点が刺激になった」といった声も多く上がり、熱気あふれる場となりました。三井グループは今後も、この30名の若きチャレンジャーを支援するとともに、350周年記念事業を通じグループの存在意義を再確認しながら、社会課題の解決に取り組む姿勢を体現すべく、様々な活動を行ってまいります。



「チャレンジャー発表会 STAGE UP MEETING 2025」参加のチャレンジャーたち

●チャレンジャープレゼンテーション（30名の中から一部紹介）

事業・社会活動部門

猪村 真由さん：入院という時間をちょっと特別にするイノベーションプログラム「POCO!」



慶應大学看護医療学部在学中のフィールドワーク体験から、長期入院し闘病する子供たちの生きる力を伸ばすイノベーションプログラムの提供に取り組み始め、自ら社団法人 Child Play Lab.（チャイルド プレイ ラボ）を設立。「POCO!（ポコ）」ブランドで入院中の子供たちに届ける「アドベンチャー BOX」というキット開発から、現在は、退院後も伴走する「アドベンチャーASSIST（アシスト）」のプログラムなど順次立ち上げ活動中。なお、本件取り組みは2024年度グッドデザイン・ニューホープ賞 最優秀賞に選定された。

「病気になったことをどのように自分の人生に取り込んでいくか、自分の物語につなげていくのか」たくさんのお子と出会う中、その在り方がその先どのように自分らしく生きていけるのかということに大きく関わってくるのだということを感じた1年でした。昨年は「アドベンチャーBOX」の配布と病院での実証実験を通じ、病院を退院後、学校などへ復学する子どもたちへの支援がより必要であるということがわかってきました。この気づきから、病院での入院期間中の治療体験を共有しつつ、退院後の時間を一緒にサポートしていくアドベンチャーASSISTも開始しました。こうした取り組みが日本全国にある子ども専門病院や小児科を要する病院へ仕組みとして広がっていくよう、今後も引き続き活動をしていきたいと思っております。

大日方 伸さん：「循環型装飾社会」へ。3D プリントを生産基盤としたデジタルテーラーメイドものづくり



大学時代に3Dプリンタの世界と可能性に魅せられ、株式会社「積彩」を起業。建築やインテリア業界が求める「独自性・デザイン性」と「地球環境問題やサステナビリティ」という課題の双方を、3Dプリンタによる新しいものづくりやサプライチェーン構築で解決しようと事業活動に取り組む。2024年、国内外の展示会に積極的な出展を行い、アジア最大規模の国際家具デザインフェア「DESIGN SHANGHAI 2024」において「Design Shanghai Picks 2024」を受賞。

私たちは、「Shape Your Color」というコンセプトを掲げ、3Dデザインと循環型の材料を使用した1点ものの装飾制作、その装飾のサステナブルな循環による新しいものづくりを実現したいと考えています。2024年は国内外の様々な展示会へ出展し、私たちが考えるものづくりの訴求を行い、アワードを受賞するなど数多くの評価をいただきました。また、大阪・関西万博のパビリオンのひとつに参画し、環境にやさしい素材を活用した装飾制作を行いました。そしてこのプロジェクトでは、使用した後の装飾を、一度素材へ戻し、別の場所で展示する新たな装飾にするといった循環型ものづくりを実現させる予定です。今年は事務所を移転し、外部への発信機能も兼ねた新しいデザイン工房も開設します。引き続き、世界で活躍できる企業へ成長できるよう活動を続けていきます。

研究・留学部門

宮瀬 環さん：ポストデジタル社会における人間と衣服の相互関係の研究



東京大学学際情報学府でウェアラブルデバイスを研究する傍ら、服飾学校でファッションデザインを学ぶ。2025年9月には、英国ロンドンのRoyal College of Artへ留学を予定し、「肌に一番近い衣服がどのような存在となるのか」という問いに取り組みつつ学際的な学問としてのファッションの確立を目指す。

2024年は、大学院の修士制作で「街に遍在する目に見えない電磁波が作る地形を体にまとう」をテーマに服を作り発表しました。さらに、青山のアートフェアでは「未来のファッションのかたち」をテーマに発表を行い、ファッションスクールの修了展では「寄生 パラサイトするものとしてのファッション」という問いを立て展示を発表するなど、大学院での研究と学外での創作活動に取り組むことが出来ました。また、三井みらいチャレンジャーズオーディションの交流会で、他のチャレンジャーズとの交流が契機となり、視野を広げることも出来ました。2025年9月には、目標としていた英国ロンドンのRoyal College of Artへ留学し、フィールドに入り込んだリサーチ活動と表現活動を学びながら、展示発表などに積極的に取り組んでいきたいと考えています。

巴山 未麗さん：言語の視点からグローバルを再構築する



慶応大学 3 年生。「ウォロフ語」との出会いをきっかけに言語の魅力に取り憑かれ、これまで世界中の地域でホームステイをしながら、多くの地元言語に触れるフィールドワークを継続してきている。「世界の言語は何もしなければあと数十年で半分なくなる」なか、言語問題を通じ格差を生まない「真に多様でグローバルな社会とは」を研究中。

私はこの 1 年半、世界中の地域で 50 以上の言語を調査し、論文を執筆し学会発表などを行ってきました。帰国後は、より多くの方に言語の面白さを届けたいという思いから “kotoha (コトハ)” プロジェクトをスタートさせました。言語の魅力はその言語にしかない言葉の力、言語の持つ非翻訳性です。その翻訳できない言葉の収集、独自システム構築によるデータベース化に取り組み、現在はビジネスやエンターテインメントの視点から様々なプロダクト開発、アイデア提案を行っています。先日も、翻訳できない言語の世界観をレストランバーコンセプトで創り出す “せかいの言語つまみ食おうち展” を開催しました。今後も翻訳できない言語の魅力を伝える企画展やプロダクト開発などをはじめ様々な活動を実践していきます。

カルチャー創造部門

向井 響さん <海外からオンライン参加> :

人形浄瑠璃の新しい可能性 乙女文楽「美少女革命」プロジェクト



ポルトガルのポルト大学で研究を行いながら、作品作りに取り組む作曲家。日本の伝統演劇である人形浄瑠璃「乙女文楽」に焦点を当てた新たな音楽作品を制作中。このプロジェクトでは、乙女文楽の人形遣い協力のもと、演目復元、映像・音響センサー使用とともに最先端コンピュータ技術を使い、伝統芸能のその先の可能性を提示する。

今回のチャレンジでは、日本の伝統演劇である人形浄瑠璃「乙女文楽」に焦点を当て、新たな音楽作品制作に取り組んでいます。2025 年の最も大きな成果として、乙女文楽ひとみ座とポルト国立人形劇団の共同制作による新作「美少女革命 Princesa Yaegaki」の公演を、日本大使館の後援を受けてポルト大学で行いました。幅広い年齢のお客様に会場いただき、会場は満席となりキャンセル待ちも出るなど、非常に大きな関心を集めることができました。現在は、パリ・ポンピドゥー・センターから、浄瑠璃をテーマに電子音楽とメディアを使った新しいデジタルメディア作品の創作、東京佼成ウインドオーケストラによるチェロ協奏曲など、様々な委嘱をいただき作品作りに取り組んでいます。2026 年には、ポルト国立人形劇団と日本で乙女文楽とのコラボレーションを行う予定です。

久保田 徹さん <海外からオンライン参加> :

長編ドキュメンタリー映画の制作と Docu Athan プロジェクトによる自由な空間の創造



2022 年ミャンマー軍に拘束され奇跡の生還をしたジャーナリスト。帰国後、引き続き現地で活動する多くの抑圧された東南アジアのジャーナリストやミャンマー人クリエイターを側面支援する団体「Docu Athan」を立ち上げる。2024 年は、彼らをテーマに TV 版ドキュメンタリー「境界の抵抗者たち」を完成させる。

私は、国境の町タイ・メーソットで、クリエイター、ジャーナリスト、アーティストへ機材の無償貸出を行い、ともに活動しています。すでに 300 以上のプロジェクトに無償貸出を行っています。2024 年は、彼らの活動の裏側やその想いを映像化した TV 版ドキュメンタリー「境界の抵抗者たち」が NHK・BS にて放映されました。そして現在、イギリスのプロダクションの後援を受け、この作品を長編映画版として制作しています。2025 年、もしくは 2026 年には完成させ、映画祭などへ出展していく予定です。こうした活動は、単なる支援活動ではありません。抑圧されたクリエイター、ジャーナリスト、アーティストとともに制作し連帯を示すことは、私にとって映像を通じた表現活動です。今後もこうした活動を通じ、支援活動や国際協力という枠組みの中、より広範なカルチャーを創造する取り組みを行っていきます。

●チャレンジャーの活動テーマ表（五十音順／名前・活動内容 2025年5月12日時点）

事業・社会活動部門

名前		活動タイトルと概要
猪村 真由さん (イムラ マユ)		入院という時間をちょっと特別にするイノベーションプログラム「POCO!」 社団法人 Child Play Lab.を設立し、長期入院し闘病する子供たちの生きる力を切り開く力を伸ばすためのイノベーションプログラム「POCO!」を提供。病気を抱えるすべての子どもたちが、自らの療養体験を糧にしその経験をもとめせずに人生を切り拓いていける世界を目指す。
大砂 百恵さん (オオスナ モモエ)		e-Combu 浜に打ちあがる未利用の昆布を温暖化における「牛のげっぐ問題」解決に使えないかと発想。北海道十勝広尾町をフィールドに、牛の飼料添加剤開発を軸に漁業と酪農をつなげるサステナブルなビジネスモデルづくりに取り組む。
大村 慧さん (オオムラ ケイ)		移動のインフラとなる、未来の医療・福祉モビリティサービス「mairu」 医療と福祉を支えるモビリティのインフラの構築をミッションに掲げる株式会社 mairu tech の CEO。通常の移動手段が届いてこなかった、移動のために支援を必要とする人々に信頼できる移動サービスを届けることに取り組む。
大森 美紀さん (オオモリ ミキ)		排水処理から水の価値連鎖を生む 2022年株式会社 Nocnum を創業し、排水処理設備の遠隔監視 IoT センサーを足がかりとして事業を開始。現在は国内外における水問題の解決に邁進中。不衛生な水による不利益を被る人がいない世界をめざし、中期的に途上国の排水問題解決に取り組む。
岡本 萌花さん (オカモト モエカ)		RE FASHION MARKET 近畿大学での学生起業「株式会社 HAGI」共同代表。人気インフルエンサーを起用し、私物を購入できるフリーマーケットを全国各地で開催。年間30回以上の開催と400名以上のインフルエンサー出店実績。若者の二次流通市場をより定着させ、衣類廃棄問題に取り組む。
大日方 伸さん (オビナタ シン)		「循環型装飾社会」へ。3D プリントを生産基盤としたデジタルテーラーメイドものづくり 大学で3Dプリンタの世界と可能性に魅せられ、建設・インテリア業界等が求める「独自性・デザイン性」と地球環境からの要請である「サステナビリティ」という相反課題に、新しいものづくりのサプライチェーン構築で解決に取り組む。株式会社「積彩」として本格事業を始動。
加藤 路瑛さん (カトウ ジエイ)		五感にやさしい社会の創造事業 株式会社クリスタルロード代表取締役。感覚過敏という体質・経験をベースに、感覚過敏の人にとって暮らしやすい「五感にやさしい社会」の実現を目指し小学生時代に親子企業。研究・啓発と商品の企画販売を行う。
齋藤 杏実さん (サイトウ アミ)		サブサハラにおいて誰もが農業機械にアクセスし、持続的な農業が行える社会を作る 20歳前後から繋がりがあったアフリカでの農業改革を通じた貧困解決に取り組む。農業撒布ドローンレンタル運用を軸に、ドローンによって撮影された圃場（ほじょう）画像の解析技術導入などを目指し、持続的農業の実現に向けて取り組んでいる。
中原 楊さん (ナカハラ ヨウ)		音声認識と AI 要約によるカルテ自動生成で医療現場に変革を 株式会社 medimo 代表。医師の事務作業を圧倒的に効率化する事業展開を模索。長時間労働に苦しむ医療従事者に、音声認識と AI 要約技術を組み合わせ、診察中の会話からカルテ生成するサブスクアプリ medimo を2024年4月リリース。既に導入件数は200施設を超える。
橋爪 海さん (ハシヅメ カイ)		食品残渣を活用した持続可能な飼料原料供給 株式会社 Boon 代表。魚粉同様のアミノ酸構成の昆虫（ミルワーム）の生産システムで、その餌に食品残渣を活用するビジネスモデル。水産養殖業の飼料価格高騰に苦しむ「一次生産者」と食品残渣問題を抱える「食品製造業者」双方にメリットを生み、環境負荷を低減する社会活動に取り組む。

研究・留学部門

名前		活動タイトルと概要
王 方成さん (オウ ホウセイ)		深宇宙探査・開発のための超小型衛星群インフラ 宇宙開発における深宇宙という電波が届きにくく地球からのコントロールが難しい空間での衛星の自動運転実現の為に、多数の衛星群同士の光通信 GPS や協調アルゴリズムの開発についての研究を進める。
北井 朝子さん (キタイ アサコ)		細胞にセキュリティをかけるための、遺伝子発現ゆらぎの定量とシステム解明 自然の多い環境で育つ中、生物らしさとはなにかに疑問を持ち東大医学部で生物細胞学分野の研究を行う。生物による物質生産におけるイノベーションを志し、米国での研究留学を希望。遺伝子発現ゆらぎの起きる仕組みと効果の解明、及び微生物に対するセキュリティシステムの開発に取り組む。
久保田 しおんさん (クボタ シオン)		ニュートリノ検出器における電荷検知技術の開発 ハーバード大学の博士課程に所属しつつ、アメリカの世界最大級ニュートリノ実験プロジェクト DUNE、ニュートリノ実験の研究者が多く集まる英国マンチェスター大学、テキサス大学を拠点に研究活動中。現在ニュートリノ検知の精密性を向上させる新たな電荷検知システムの制作・実装、開発を行っている。『人類の未だ見ぬ世界を切り拓く科学者』としての活躍を目指す。
佐藤 愛海さん (サトウ マナミ)		クラゲの無性生殖メカニズムの解明とその応用に向けた研究 東京大学水圏生物工学研究室で、クラゲ大量発生コントロールによる海洋環境向上・水産業貢献、人口肉等の食料増産技術への応用可能性に繋がるクラゲの無性生殖（増殖）の仕組み解明に取り組む。
鈴木 健太さん (スズキ ケンタ)		数学研究で拓く未来 現状 MIT に在籍し応募テーマ領域を研究し純粋数学者を目指す。ラングランズ予想は難解で有名な問題で、世界中の数学者が発展させてきた。局所ラングランズの証明を目指し未来の科学の進歩に貢献する。学部最後の一年、大学院進学へ向け研究成果を論文の形にし発表を行う。
高井 万弥さん (タカイ マヤ)		Harvard Graduate School of Design Master of Architecture 実家のある熊本での震災経験をきっかけに建築家を志望。ジョージア工科大学を経て現在ハーバード大学の建築デザイン大学院に在学中。サステナブルな建築を通じたイノベーションを起こすため、建築の可能性を追求する。
巴山 未麗さん (トモヤマ ミレイ)		言語の視点からグローバルを再構築する 「世界の言語はこのまま何もしなければあと 100 年で半分はなくなる」なか、言語が格差を生まない「真に多様でグローバルな社会とは」を研究中。「ウォロフ語」との出会いをきっかけに言語の魅力に取り憑かれ、これまで世界中の地域をホームステイしながら多くの地元の言語に触れるフィールドワークを継続してきている。
プラート アルヴィンさん (プラート アルヴィン)		二重コンクリーションの形成メカニズムの解明と地質学的物性の制御法の確立 東京大学を拠点にコンクリーション（化石化過程で生物を起源として形成される非常に耐久性の高い岩塊）を研究中。そのコンクリーションが多重化した独自の標本を元に、生成プロセスを解明し再現制御の応用を目指す。
水澤 佑介さん (ミズサワ ユウスケ)		地方振興における文化観光普及の経済的意義 山形県出羽三山を起点に日本固有の山岳信仰・山伏文化に基づく「文化観光」の確立普及に取り組む。山形・鶴岡にて修験道が根付く山岳信仰集落を守るといふ一歩から日本の「文化観光」を持続可能で稼げるものに変革すべく、文化財活用による社会運営貢献モデル構築のため、ポロニヤ大学へ 2 年間の研究・留学中。
宮瀬 環さん (ミヤセ タマキ)		ポストデジタル社会における人間と衣服の相互関係性の研究 東京大学学際情報学府でウェアラブルデバイスを研究する傍ら、服飾学校でファッションデザインを学ぶ。今後英国ロンドンの Royal College of Art へ留学し、「肌に一番近い衣服がどのような存在となるのか」という根源的な問いに取り組みつつ学際的な学問としてのファッションの確立を目指す。

カルチャー創造部門

名前		活動タイトルと概要
稲垣 桃さん (イナガキ モモ)		ART による社会問題の「自分ごと化」 演出・撮影・英語ナレーションをすべて自身で制作したドキュメンタリー映像「Jk in the street」が、アートコンペに入選する等、様々な場での社会活動に参加して自らを表現発信してきた。社会問題をとりあげた作品制作を通じ鑑賞者に問題の「自分ごと化」をさせるアートのあり方を探究する。
牛田 智大さん (ウシダ トモハル)		「音楽とはなにか-その体系的な全容"ICAM"(A.Agazhanov,2022,仮題)」日本語訳出版プロジェクト 現在ワルシャワのフレデリック・ショパン音楽大学に在籍しながら国内外で活動中のピアニスト。クラシック音楽における日本（アジア）の地位を高めるビジョンを持ち、その一環としてロシアの作曲家 A.アガジャーノフによる音楽（演奏芸術）のメソッドの翻訳普及を目指す。
大塚 健太郎さん (オツカ ケンタロウ)		世界中の有形・無形文化を現代に「翻訳し、分断を乗り越える新たなカルチャーを日本から世界へ。 「劇団あはひ」で活動する劇作家・演出家。伝統芸能や文化を、演劇という人と人が集まり時間を共有するメディアに翻訳するというテーマで創作活動をしている。2020年『どさくさ（Remix）』で史上最年少下北沢本多劇場進出。2022年『流れる』と『光環（コロナ）』が東京芸術劇場や金沢21世紀美術館のプログラムに選出されるなど多数の受賞歴あり。
梶本 大雅さん (カジモト タイガ)		ようこそ絵本の音楽会へ 全国で始まる豊かな「祭」の創造 株式会社オトギボックスにて親子向けコンサート事業「ようこそ絵本の音楽会へ（絵本の読み聞かせコンサート）」に取り組む。子育て世帯が安心して過ごせる公演、障がいを持っている方もその家族も隔絶しない音楽空間、作家と音楽家と観客が繋がるコンサートの創造を目指す。
桂 枝之進さん (カツラ エダノシン)		Z 落語 15歳で桂一門に入門。修行と高座を継続しつつ、コロナ禍を契機に落語が現代の大衆芸能としてZ世代に自然に受け入れられるためのアプローチやデザインを「Z 落語」というテーマで模索中。様々な表現にチャレンジしている。
久保田 徹さん (クボタ トオル)		長編ドキュメンタリー映画の制作と Docu Athan プロジェクトによる自由な空間の創造 2022年ミャンマー軍に拘束され奇跡の生還をしたジャーナリスト。帰国後、現地で活動する多くの抑圧された東南アジアのジャーナリストやミャンマー人クリエイターを側面支援する団体「Docu Athan」を立ち上げ、2024年は彼らをテーマにしたTV版のドキュメンタリー『境界の抵抗者たち』を完成させた。
高橋 鴻介さん (タカハシ コウスケ)		接点の発明：新しいコミュニケーションの方法をつくる 自らを発明家と称し、人種、文化、年齢、能力の違いを超えたコミュニケーションを生み出す。ものづくり『接点の発明- Invention for Unity』をコンセプトに活動中。200年ぶりの点字の再発明として注目された、点字と文字が一体になった書体『Braille Neue』などが代表作。
武田 かりんさん (タケダ カリン)		たくさんの人の人生を照らす物語をつくる 東京工芸大学在学中に監督した『そして私はパンダやシマウマに色を塗るのだ。』で注目される。10代の頃、不登校の経験をオマージュした初の長編映画『ブルーを笑えるその日まで』が各地で上映。目標である長編映画作品へ向けて、新しい脚本づくりに取り組んでいる。
田中 亜希子さん (タナカ アキコ)		ミュージカル甲子園 ミュージカルの普及に取り組み、学生の活躍の場づくりとして「学生ミュージカルガチバトルライブ」を企画・運営。この大会を全国レベルに広げ、「ミュージカル俳優の登竜門となるような大会に育てたい」「この大会を通じ日本にミュージカル文化を広く根付かせたい」という想いを持つ。
向井 響さん (ムカイ ヒビキ)		人形浄瑠璃の新しい可能性乙女文楽「美少女革命」プロジェクト 日本の伝統演劇である人形浄瑠璃「乙女文楽」に焦点を当てた新たな音楽作品を制作中。このプロジェクトでは、乙女文楽の人形遣い協力のもと、演目復元、映像・音響センサー使用とともに最先端コンピュータ技術を使い、伝統芸能のその先の可能性を提示する。

●三井グループ 350 周年記念事業実行委員会 委員長メッセージ



「三井みらいチャレンジャーズオーディション」が発足した時、チャレンジャーの皆様には、社会課題解決、未来に向けた研究・留学、新しい文化の創造等、各自がチャレンジしたいことを提案していただきました。そして、そのチャレンジが着実な成果を生み出し、皆様がこの1年で大きく成長されていることを実感し、感動しています。

皆様の志はさらに高く、目指すゴールへ到達するにはまだ時間がかかると思います。これからも我々三井グループのリソースを活用していただき、その高い志をぜひ叶えてください。

「三井みらいチャレンジャーズオーディション」の良いところは、フィールドや価値観が異なる30人のチャレンジャー、そして我々三井グループ各社とコラボレーションし、新たな絆を創り、それぞれのチャレンジに活かすことができることだと思います。ぜひ新たな絆を生み出し、今後の活動へ活用し、さらに飛躍していただくことを期待しています。

三井グループ 350 周年記念事業実行委員会 委員長
三井不動産株式会社 代表取締役会長 菰田正信

三井みらいチャレンジャーズオーディション 概要

【要旨】

2024年3月に、未来の社会のために自らチャレンジする若者30人をオーディションにて選出し支援を開始。

【募集部門と求める人物像】

① 事業・社会活動部門

-新しい事業や社会貢献活動によって、世の中にイノベーションを起こそうとしている人

② 研究・留学部門

-より良い未来の社会を目指し、海外への留学も含め様々な場で学び、研究しようとしている人

③ カルチャー創造部門

-自らの文化芸術活動を通じて新しいカルチャーや価値観の創造に挑もうとしている人

【最終通過者への支援内容】

最終審査を通過した方が主体的に事業・研究・制作活動を進められるよう、支援金やネットワーキングおよび一定のプラットフォームの提供等、最長2027年度まで三井グループ25社^{※1}がサポートを実施。

・通過者には、活動に対する支援金として一人当たり一律5,000,000円を支給。

2年目となる本年は、自己を更に成長させていただくことを期待して全員に一律でベース支援金を支給。

また、個々人の次年度活動計画を基に審査し、活動ごとに個別支援金を支給。

・オーディション通過者には通過者同士のネットワーキング機会の提供など、一定のプラットフォームを提供するとともに活動発表会を開催。

・チャレンジ内容やその後の活動進捗なども踏まえた通過者個々人に合わせた支援を実施。

【三井みらいチャレンジャーズオーディション 公式 HP】

<https://mitsui350th.com/audition/>

※1【350周年記念事業 実行委員会 25社】

株式会社 IHI / 王子ホールディングス株式会社 / 三機工業株式会社 / 株式会社商船三井 / 太平洋セメント株式会社 / 株式会社 TBS ホールディングス / デンカ株式会社 / 株式会社東芝 / 東レ株式会社 / トヨタ自動車株式会社 / 株式会社ニッポン / 株式会社日本製鋼所 / 日本製紙株式会社 / 富士フィルムホールディングス株式会社 / 株式会社三井 E&S / 三井化学株式会社 / 三井金属鉱業株式会社 / 三井住友海上火災保険株式会社 / 株式会社三井住友銀行 / 三井住友建設株式会社 / 三井住友信託銀行株式会社 / 三井倉庫ホールディングス株式会社 / 三井不動産株式会社 / 三井物産株式会社 / 株式会社三越伊勢丹ホールディングス (50音順)

本記念事業活動は、三井グループの中核企業25社で構成される二木会の経営層からなる実行委員会にて運営されます。

【三井グループ 350 周年記念事業について】

MITSUI GROUP 350th ANNIVERSARY

三井グループ 350周年記念事業

ニュース 事業紹介 三井グループとは 実行委員会グループ企業一覧

ENGLISH

三井グループ350周年記念事業

みついのちからを、
みらいのひとに。

MITSUI GROUP
350th
ANNIVERSARY

> コンセプトメッセージ

MITSUI
MIRAI CHALLENGERS
AUDITION
三井みらいチャレンジャーズオーディション

THE STARTING CEREMONY
三井みらいチャレンジャーズオーディション
最終通過者発表会

MIRAI CHALLENGERS AUDITION

> 最終通過者プロフィール公開中

三井グループ 350 周年記念事業ホームページ

<https://www.mitsui350th.com>